

学科共通科目

科目名	医療福祉システム論	System of Health and Welfare		
学科(専攻)・学年	歯科衛生学科・1年 社会福祉学科社会福祉専攻・2年 社会福祉学科介護福祉専攻・1年 こども学科・2年	単位数	1.00単位	
開講年度学期	令和4年度 後期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	江原 勝幸・吉田 直樹・深江 久代			
授業の目的(GIO)	社会の高齢化が進展する中で、地域における保健・医療・福祉活動の実際や連携のあり方、地域ケアのシステム化などについて学ぶ。			
授業の到達目標(SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療福祉サービスに従事する専門職の役割について述べることができる。 2 保健医療福祉従事者の連携、協働の必要性と方法について考えることができる。 3 地域ケアシステムのためにどのようなことが大切か記述できる。 4 歯、口腔の機能及び歯科疾患の概要を述べるができる。 5 要支援者、要介護者の歯科健康管理の必要性と方法について考えることができる。 6 生存権を理解し、それらが規定されている意味から保健医療福祉の連携を考えることができる。 7 現代の社会問題から保健医療福祉サービスが連携・協働する必要性を理解することができる。 8 保健医療福祉専門職の連携・協働の課題について述べるができる。 			
授業の計画と内容	<p>第1講 高齢者の特徴と地域ケアのシステム化(深江)</p> <p>第2講 難病地域ケアにおける専門職の役割と難病ケアシステムの構築(深江)</p> <p>第3講 医療保険制度、診療報酬及び介護報酬の概要と医療制度改革(深江)</p> <p>第4講 歯、口腔の機能及び歯科疾患(吉田)</p> <p>第5講 要支援者、要介護者の歯科健康管理(吉田)</p> <p>第6講 生存権の意義と保健医療福祉分野の連携(江原)</p> <p>第7講 家庭内の暴力・人権問題に対する保健医療福祉サービスの連携・協働(江原)</p> <p>第8講 地域包括ケアの推進における多分野専門職者連携の課題(江原)</p>			
評価の方法	授業態度(10%)、各教員に提出するレポート(各30%、合計90%)			
テキスト	特になし。適宜、資料はプリントを配布します。			
参考書	授業の中で適宜紹介します。			
学生へのメッセージ	3人の教員によるオムニバス形式で行います。授業内容の順番は変更する場合があります。			

科目名	人間関係と援助技術	Human Relationship and Social Work		
学科(専攻)・学年	歯科衛生学科・1年 社会福祉学科社会福祉専攻・2年 社会福祉学科介護福祉専攻・1年 こども学科・2年	単位数	1.00 単位	
開講年度学期	令和4年度 後期	授業区分	講義	聴講不可
担当教員	松浦崇 * 名倉一美			
授業の目的(GLO)	歯科衛生学科、社会福祉学科、こども学科は、共通して人と関わる領域について学ぶため、人と関わる専門職(対人援助職)としての高い専門性(知識・技術)や倫理(人間性)が求められる。 本授業では、そうした学びを進める上で求められる人間関係論の基礎について理解を深めると共に、援助に携わることの意義や、実際の援助場面において生かせる方法・技術を学ぶことを目的とする。			
授業の到達目標(SBOs)	・第1講から第4講(松浦担当)では、人と関わる仕事(対人援助職)に携わる上で必要となる援助技術について学ぶ。援助の概念や必要性について、対象者の権利保障という視点から理解を深め、各自の実践につなげることを目標とする。 ・第5講から第8講(名倉担当)では、チームで働く対人援助職に求められるさまざまな人間関係の理論や課題を知り、自分自身と関連づけながら考えることを目標とする。			
授業の計画と内容	第1講 援助とは何か ―援助の本質を考える―(担当:松浦) 第2講 社会における困難とソーシャルワークの必要性(担当:松浦) 第3講 他職種・関係機関との連携と専門職の役割(担当:松浦) 第4講 援助技術とその展開(担当:松浦) 第5講 感情労働とは何か ―対人援助職を考える視点―(担当:名倉) 第6講 協働性を高めるチームワークのあり方(担当:名倉) 第7講 対人援助職に求められるリーダーシップ(担当:名倉) 第8講 組織づくりのための研修の役割(担当:名倉)			
評価の方法	授業内の課題への取り組み(30%)、期末レポート(70%)により評価する。			
テキスト	特に指定をしない。授業中、随時、資料を配布する。			
参考書	授業中に、適宜、紹介する。			
学生へのメッセージ	前半を松浦、後半を名倉が担当します(後半は、担当教員が幼稚園・保育所・行政に従事した経験をもとに、具体例を示しながら講義を行います)。二人の教員どちらの講義にも出席が必要です。			

科目名	ホスピタルプレイⅠ(入門編)	Introduction of Hospital Play		
学科(専攻)・学年	歯科衛生学科・1年 社会福祉学科社会福祉専攻・2年 社会福祉学科介護福祉専攻・2年 こども学科2年	単位数	1.00 単位	
開講年度学期	令和4年度 後期	授業区分	講義	不可
担当教員	松平 千佳・杉山 全美			
授業の目的(GIO)	この科目では、医療的ケアを受ける子どものウェルビーイング(福祉)を支えるために、医療と遊びをつないで子どもを支援する方法、Hospital Playを学ぶ内容で構成されます。 時には恐怖を感じる可能性の高い、医療的な処置や治療を、遊びを使って子どもたちに理解してもらおう方法や、医療環境をチャイルドフレンドリーにするための試みに、皆さんにも取り組んでもらいます。 そうすることにより、将来、介護福祉士として、歯科衛生士として、あるいは保育士、社会福祉士として、対人援助をおこなう際に、支援方法に工夫したり、クライアントの気持ちに寄り添う具体的な方法を身に付けることが出来るでしょう。 この科目はできるかぎり、ホスピタルプレイⅡ(障害児編)と合わせて受講することを推奨します。			
授業の到達目標(SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにとっての遊びの意味、価値を説明できる。 ・子どもの権利と遊びとの関連を説明できる。 ・子どもの発達と遊びとの関連を説明できる。 ・子どもの病気・障害の家族への影響を考えることができる。 ・病気・障害を持つ子どもの心理的・社会的ニーズを考えることができる。 ・子どもの療養環境を考察できる。 ・遊びによる病児の支援を考察できる。 			
授業の計画と内容	<p>第1講: 遊びの意味、価値 ・遊びの研究、遊びと社会及び遊びと人間の関係性(松平)</p> <p>第2講: 子どもの権利と遊び1 ・子どもの権利の形成(杉山)</p> <p>第3講: 子どもの発達と遊び(杉山)</p> <p>第4講: ホスピタル・プレイの概要 ・ホスピタル・プレイ・スペシャリストという職業の誕生と発展(杉山)</p> <p>第5講: 子どもの発達と遊び2 ・発達段階に応じた遊び(杉山)</p> <p>第6講: 小児期の病気とホスピタル・プレイ(杉山)</p> <p>第7講: 病気の子どもの子どもの社会・心理学的ニーズ(杉山)</p> <p>第8講: まとめと評価(松平)</p>			
評価の方法	ホスピタル・プレイの実際を学ぶ内容となるので、毎回ながしかの「遊び」に取り組みます。 そのため、出席をして課題に取り組むことで70%を評価します。 8コマ目に、まとめと評価を行います。この課題で残りの30%を評価します。			
テキスト	「遊びに生きる子どもたち」金木犀社			
参考書	「ホスピタル・プレイ入門 Hospital Play Specialist という仕事」建帛社 松平千佳＝編著			
学生へのメッセージ	全国で、HPSにかかわる教育活動を行っているのは、本学だけです。 病児に対するHPSの支援は、現在とても注目され始めている分野で、本学にはHPSになりたいという社会人が、HPS養成講座に全国からきています。 皆さんもこの特徴ある教育内容を取り込んで、専門性を高めてください。			

科目名	ホスピタルプレイⅡ(障がい児編)	Hospital Play for children with special needs		
学科(専攻)・学年	歯科衛生学科・1年 社会福祉学科社会福祉専攻・2年 社会福祉学科介護福祉専攻・2年 こども学科2年	単位数	1.00 単位	
開講年度学期	令和4年度 後期	授業区分	講義	不可
担当教員	松平千佳・平原珠美			
授業の目的(GIO)	<p>この科目は、ホスピタル・プレイⅠ(入門編を受講した学生が、さらにホスピタル・プレイにかんする学びを深めるための科目です。</p> <p>ホスピタル・プレイとは、医療とかかわる子どもたちがその体験を肯定化できるように、遊びの力を用いて支援する活動の総称です。</p> <p>本科目では、1で学んだ基礎を踏まえて、慢性的な症状を持ち、障害とともに生きる子どもたちを中心に、ホスピタル・プレイの実践を学びます。</p> <p>障害を持つ子どもたちは、常に怖いと感じる可能性の高い、医療的な処置や治療を繰り返し体験する可能性のある子どもたちです。</p> <p>将来、介護福祉士として、歯科衛生士として、あるいは保育士、社会福祉士として、障害のある人たちに対人援助をおこなう皆さんが、より豊かに既存に支援以外に想像力を使って支援ができるよう、体験的に学習することを目的としています。</p>			
授業の到達目標(SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの病気・障害の家族への影響を考えることができる ・病気・障害を持つ子どもの心理的・社会的ニーズを考えることができる。 ・子どもの療養環境を考察できる。 ・遊びによる病児の支援を考察できる。 ・障害のある子どもに対する遊び支援を考察できる。 ・在宅で暮らす医療的ケアが必要な子どもに対する遊び支援を考察することができる。 ・子どもの病気と家族の関係を考えることができる。 ・ホスピタル・プレイ・スペシャリストの概要を説明できる。 ・対人援助者として行為としての「やさしさ」を届けられる態度を身につけることができる。 			
授業の計画と内容	<p>第1講 子どもの療養環境 ・子どもからみた療養環境、子どもにやさしい療養環境 松平</p> <p>第2講 子どもがやさしさを感じられる医療を実験するための工夫1 ・主に療養環境における遊び及び手術や処置の準備(プレイ・プレバレーション)について松平 平原</p> <p>第3講 子どもがやさしさを感じられる医療を実験するための工夫2 平原 ・主に処置時の対応(ディストラクション、気をそらす遊び)及び治療的遊びについて</p> <p>第4講 障害のある子どもに対する遊び支援 平原</p> <p>第5講 在宅で暮らす医療的ケアが必要な子どもに対する遊び支援 平原</p> <p>第6講 子どもの病気と家族支援 平原</p> <p>第7講 グリーフケアを体験しよう 平原 松平</p> <p>第8講 まとめと評価 松平</p>			
評価の方法	<p>ホスピタル・プレイの実践を学ぶ内容となるので、毎回ながしかの「遊び」に取り組みます。</p> <p>そのため、出席をして課題に取り組むことで70%を評価します。</p> <p>8コマ目に、まとめと評価を行います。この課題で残りの30%を評価します。</p>			
テキスト	「遊びに生きる子どもたち」金木屋社			
参考書	「ホスピタル・プレイ入門 Hospital Play Specialist という仕事」建帛社 松平千佳＝編著			
学生へのメッセージ	<p>全国で、HPSにかかわる教育活動を行っているのは、本学だけです。</p> <p>病児に対するHPSの支援は、現在とても注目され始めている分野で、本学にはHPSになりたいという社会人が、HPS養成講座に全国からきています。</p> <p>皆さんもこの特徴ある教育内容を将来の職種と関連付けて子どもにやさしい医療や治療を専門他職種との連携の中で作れる専門職になっていってください</p>			